



復刊第65号  
題字 吉岡 弥生



会長、し、神 美知

### 国際女医学会会議 開催の年を迎えて

一九七六年の新春を迎え、会員の皆様にはますますご健勝にご活躍のこととおよろこび申し上げます。

さて本年はいよいよ国際女医学会会議開催の年となりました。何はさておきこの東京会議だけは成功させねばならない年であります。会議まであと八ヵ月、新年を迎えて切迫した緊張感をひしひしと感じるのであります。会議の成功はひとえに会員の方々のご協力によると存じますので、何卒よろしくご協力下さいますようお願い申し上げます。

人生の一里塚である年頭に当り、まぎ過ぎる年を顧み、さらに新しい年の計画を考えてみたいと存じます。

昨年は日本女医学会有史以来最も賑々しい年でありました。その賑々しさの一つは正月早々から緊急理事会の開催されたことでもあります。この緊急理事会

がその後一年間つづいた紛糾の幕あきだったのであります。どうしてこんなことになったのか、一年間を振り返って、幾度か反響しておりますが、その因子の分析がむずかしく未だに解明出来ないものであります。

ひとつもつれた糸を解くには、分析と根気が必要であります。これと同様にこの問題も分析し、根気よくとり組んでゆきたいと思っております。しかし本年はどうしてもこのわだかまりを解きたいものと念願しております。

賑々しさの第二は、昨年の後半はおそまきながら、国際女医学会々議への準備が進み、会議開催への見通しのついたことでした。学術会議の演題もかつてない程多数の出題を頂き、一つの会場ではさばききれなくなりました。またセカンド、サーキュラーも内外ともに発送され、すでに登録が行なわれ

つつあります。また寄付状況も組織委員をはじめ会員の皆様のご熱意によって着々と進展しつつあります。このような状況で新年を迎えることはまことによろこばしいことであり、本年は昨年の仕事をさらに推進し、細部にわたり、整備しなければなりません。組織委員はその部署の仕事を忠実に、正確に遂行して、会議に向けて万遺漏なきよう整えねばなりません。また資金面においても会議が円滑に行なわれるように調達しなければなりません。国際女医学会評価委員会において、学術面も運営面も最高の点数を頂くよう頑張りたいと思っております。会を成功させるために一層のご協力を切に切にお願い申し上げます。

昨年の吉岡弥生賞は、学術方面には多年にわたり糖尿病の研究をつづけられた若手の研究者大森安恵氏、社会的貢献者としては、長い間救難のお仕事に没頭された名和千嘉氏が受賞されました。お二人とも吉岡弥生賞に相応しい女医であると思っております。今年もすぐれた研究者、かくれた社会功労者を皆様からご推薦頂きたいと存じます。吉岡弥生賞を受賞された関西医大の鮫島美子氏が昨年十一月新設の関西医大第三内科の主任教授に選出されました。このことは女医学会にとりまして誠によろこばしいことと存じます。長い間内科学ことに消化器病を専門に研究された立派な業績は、遂に認められ、第三内科主任教授となられたことは、国際婦人年にふさわしい痛快事であり、女性の地位向上はますますその実力

### 告 示

日本女医学会定款第二十四条に基づき、来る五月十六日(日)京王プラザホテルにおいて昭和五十一年度定時総会を開催いたしますが、同時に第十五条の規定により現理事任期満了に伴う役員改選を行います。

なお、立候補の届出は、定款施行細則第十八条により昭和五十一年三月十八日までに本部に必着するようして下さい。

#### 届出書類

- 一、自選のときは立候補届および履歴書各々一通
- 一、他選のときは前記書類の外に推薦者二名の署名・捺印による推薦状一通

#### 〔追記〕立候補に関する届出および

の養成から私は常に考えておりますが、鮫島先生は私の考えを如実に証明して下さいましたものとして、私は深いよろこびを覚え、心から敬意を捧げるものであります。またこれにより吉岡弥生賞が一層重みを増したことになります。今後さらに第二、第三の鮫島教授の出現を期待致すものであります。

本年は三年毎に行なわれる役員改選の年であります。選挙は総会において出席者の投票によって行なわれることになっておりますので、この五月半ばの日曜日は、今から予定に組み入れて頂き、多数ご出席くださいようお願い申し上げます。日本の女医の統合の場であり、社会活動の中心である日

履歴書用紙は一式本部にありますので規定用紙をご使用下さい。

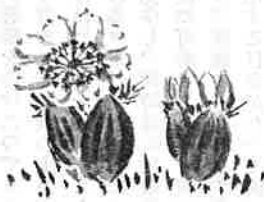
#### (選挙に関する細則抜萃)

- 第一条 定款第十四条に規定する理事は三十一・三十五名とし、うち常任理事は十名とする。
- 第七条 選挙人は選挙の九十日前までの正会員とし、被選挙人は入会後三年を経た正会員とする。
- 第十三条 理事選挙は十五名連記とする。
- 第十八条 立候補者は、選挙の告示のあった日から選挙の六十日前までに立候補届を文書で理事会に届出なければならぬ。

理事会に出席可能な方をご推薦下さい。

日本女医学会の執行部を、多数の会員の公平な意志によって選出して頂きたいと存じます。

国際女医学会東京会議の開催といい、役員改選といい、今年が多忙の年となりそうです。何卒日本の女医の力を発揮して頂きたく、より一層のご協力をお願い申し上げます。上げて年頭の辞と致します。



所感

国際女医学会会長 小野春生

明けましておめでとうございます。昨年は公私ともにいろいろとお世話様になりました。心から感謝いたしております。本年も引き続き何とぞご支援、ご指導くださいますようお願い申し上げます。

昨年の十一月に韓国女医学会へ国際女医学会として出席いたしました。テーマは家族計画。国内の全女医に呼びかけたところ、このテーマに大変関心をもたれ二百名位を予想していたのに四百名以上参加されました。もち論入会なさった方も多かつたとうかがいました。

会長および役員の方々は、てんてんまいをしていらつしゃいましたが、これはむしろ嬉しい悲鳴と申した方がよいようでした。

韓国へは数年前に西太平洋地区の副会長の時に伺いましたので存じ上げています。先生も多く楽しうございました。日本で教育を受けられた方が多く、なかでも張文卿、張在暹、車仁実、辺錫花、洪閔玉、吉貞姬、鄭鳳今、劉基玉、命吉、金福仁、金畢礼、龐徳興、李彩熙、姜珠心、孫致貞諸先生をはじめ皆様が日本女医学会の皆様にくれぐれもよろしくお伝えするようとのことございました。

来年八月の国際女医学会東京会議には出席したいとおつしゃつていらつしゃいました。困ったことは韓国では日本のスポンサーがいらないと出国出来ないとのことでした。どうか日本女医学会の皆様、その折には力になってあげようではございませんか。

思い起せばその昔、私が連絡書記の頃、バーデンバーデンの国際女医学会をはじめ、マニラ、サンデフィヨルド、ロチェスターの会へ出席するために諸外国の国際女医学会に招待状を書いていただきました。おかげでパスポートまたはビザがいただけで日本女医学会から多くの方が国際会議に参加出来ました。いまの日本はずいぶん発展したものです。

過去を思い出して隣国の会員が困っている時には手を差し延べようではないでしょうか、よろしくお願い申し上げます。

他の諸外国の会員から東京会議をとっても楽しみにしているというお手紙をいただいております。何とか東京会議を成功させることを願っています。これは日本のためでございますから、どうか個人的な感情を捨てて一致団結してご協力くださいますようお願い申し上げます。

国際会議準備状況について

国際会議事務総長

山崎倫子

十月中旬、国際女医学会加盟国三十七カ国の本部又は連絡書記宛、および個人会員十数名に対して、英文サーキュラーを約八百部送付致しました。十月下旬に日本文のもの、日本女医学会誌と同封して全会員に送付しました。すでに皆様のお手許にとどいており、ごらんいただいていることと存じます。以上第一段階のご案内と登録及び諸行事の申込用紙の送付が完了したことをご報告致します。

資金面が国際会議の成功を握るひとつの重要な鍵であります。これにつきましてには目下大変厳しい状態にありまします。昨夏、新聞紙上に、女医会内部の紛争、裁判において争われていること等が報道されたことにより、認可直前であった免税申請が保留にされてしまい、順調に進んでいた経済界との交渉も難関にぶつかり加えて不景気は以外に深刻で非常に苦しい状態にありまします。

国際会議の準備はあらゆる分野にわたる大事業でございますが、各委員会、各部会ごとにと折々集まって相談し進行している状態は各担当者から度々会議

中に報告され本会誌にもその後のことがのせられております。年もありましたのでいよいよ細かい事柄に至るまで検討を重ね準備してゆかなければなりません、あれこれ考えますと心配で眠れない夜が多く、皆様方のご協力をひたすらお願いする次第です。

学術委員長

久保田くろ

学術部門では、学術部長の藤井鶴子さんからその準備の進捗を本紙および種々の会議等機会あるごとにご報告いたしておりますので改めて申し上げます。事項はさしてございません。現在、各国からの出題者各位から講演の内容の原稿が集まりましたら、それを講演集として印刷に付すことが残されている段階にきており、原稿まわりの状態でございます。もち論当委員会から指定の用紙に記載条件など一切をつけて十二月半ばに各国に発送、メ切りを守って各位から返送されるわけでありまします。

しかし、これら原稿を印刷にまわすまでには相当の苦勞があるものと思われまします。強いて感想等申しますならば演題数が予想以上に多数にのぼり、一

同うれしい悲鳴をあげたのですが、各ポストの方々のご相談の上会期中の二日間だけは二会場を設けることで漸やく切抜けるメドがたちました。

会場も見学し、同時通訳設備がある二会場設置の可能である事も確かめてございます。演題のメ切りをすぎ、全演題を消化する目安がたつて後、去る九月に国際女医学会本部から学術委員長が来日され、小野会長とともに、あるいは時に必要にかんがみ各ポストの方々にもご参加いただき度々会合(委員会)を重ね、皆様のお骨折りのおかげで、諸事大切な事はほとんど決定の域に到達するまで進行いたしております。

さて、近年多くの国際会議や学会が日本において行われております。しかし、国柄、人種、民族等すべてに相違するが医業にたずさわる婦人という立場のみ同じうする人々が全世界から相集まり、同一のテーマで討議する会議は他にはありません。と私は自負いたします。

国際女医学会においては壁も障子も全部取りのぞき、お互いに話しあうことができましよう。その結果として客観的に自らの仕事などを批判しうることも出来、広い視野の中での競争も可能になりましよう。互の知識や温情の授受もできましよう。しかし最も希望いや切望いたしますことは、世界の平和の基になるまでもの深い交流をいたしたいものであるという事でございませう。学術委員会一同は大いに張切っております事を報告いたします。

経理部長

福永 ひろ子

国際女医学会第十五回国際会議の経理部の準備状況を報告致します。

当初予算額を六千五百万円と計上して、収支面について、種々検討を重ねてまいりましたが、昭和四十九年九月の予算編成当時とは内外の諸状況が一変し、人件費や諸物価の高騰は測り知れず、経済界は、戦後最大の不況に見舞われ、企業団体の寄付も、予算額より下廻る事が予想されます。また、現在第二回サーキュラーを各国に配付しておりますが、国際会議参加者数の予測がまだ見通しがつかない現状であります。これは登録費の予算計上に関連致します。

したがって経理部としては、この深刻な現実を直視して、支出面の経費節減をもととして会計士と共に、慎重に検討して、当初予算を再編成して、昭和五十一年三月末の第一回登録切の時点で、実行予算を、皆様に発表するつもりであります。

なお昭和五十年十月三十一日現在の収支は、

一 収入の部

会員寄付(二二四名)

八九四万六一〇〇円

一般寄付(九一名)

八九二万九〇〇〇円

登録費(六名) 二八万五〇〇〇円

銀行利子 一六万二八五〇円

計 一八三二万二九五〇円

二 支出の部

印刷製本費

八四万〇九〇〇円

会合費

一〇万九六七五円

通信費

三七万六一〇四円

文具費

一七万二六四〇円

消耗品費

五六万五〇〇〇円

給料・謝礼

四七八〇〇円

出張交通費

一万三〇四五円

雑費

二〇八万二三四円

計

一六二四万〇七一六円

三 差引残高

一六二四万〇七一六円

右中間報告致します。

以上

募金部長

柳瀬 路子

募金につきましては都道府県の支部長先生をはじめ会員の皆様にご心労をおかけしておりますこと、常々恐縮に存じ感謝申し上げます。

お蔭様で昨今は会員の皆様より、「何とかしなければ」とのお声があり、各支部が一斉に立上って大活動を開始されたような暖かいご報告をいただいております。先般はまた国際女医学会へご出席の先生方が決起されて、皆様に敬をとばしていただき、大変有難いことと存じます。

実際の状況として大蔵省の免税措置が保留の現在は、登録費と会員の拠金によって収支を賄ねばなりませんので、私共も必死でございます。目下募金額はお蔭様で千八百万に達しておりますが、予算六千五百万にプラスαを考えますと、登録費を計算に入れても、

なお最低二千万位の募金は達成せねばならぬ状況でございます。どうぞお一人が一人をご説得くださいまして募金にご協力いただけますよう、幾重にもお願い申し上げます。

募金につきましては各支部長の先生方に窓口をお願い申し上げてありますので、支部長の先生方へお届け願いたいと思っておりますが、地域の状況によっては、住友銀行新宿支店、日本女医学会国際会議口「四三三、二二二」へ直接お申し込み頂きますも、結構でございます。

お申越されれば本部より振込用紙をお送り申し上げます。ご多忙のところを誠に申し上げます。いことではございますが、実状ご推察の上募金活動にご協力の程をお願い申し上げます。

渉外部長

中村 西子

渉外部と致しましての役目は主として歓迎に関する行事と病院見学のご案内、それからソーシャルプログラムでございます。したがって会期中には最も活躍致しまして国際友好と親善を深めますよう一生懸命に努力を致します。

先ず八月二十二日(日)の夜は日本女医学会主催の歓迎レセプションが開かれます。お互いの親睦をはかりますよう来日された外国の女医さんたちと一人でも多くお近ずきになれますよう、ビュフェスタイルで行います。この時

員の余興をお見せするのもよろしいかと存じます。すでに日本舞踊をしてくださる有志の方のお申し出がございました。心温まるレセプションにしたいものでございます。

八月二十六日(木)の夜は国際女医学会主催の晩餐会がございます。これも私共がお手伝いを致し準備などをきめ細かく致し、思い出に残る盛りあがった会になりますよう計画をたててまいります。

病院見学は東京女子医大心研及び消化器病センターと国立小児病院、都立駒込病院センターを予定致しております。私共は案内役及び通訳を兼ねますことが、大切なことであると存じます。

それから社交行事といたしまして公式には二つございます。一つは八月二十二日(日)一時より約四時間都内見物を致します。この時デパートで花嫁

十月二十五日(土) 大組織委員会報告

(於 至誠会館四階会議室)

清水五百子・野沢 良美

遠く東北・九州を含めて一〇六名が出席、大組織委員会が開催されました。

大組織委員会の順序

一、組織委員長挨拶 三神 美和

二、国際会議準備状況について 山崎 倫子

三、国際女医学会役員会の状況について

四、運営委員会報告 川那部喜美子

五、財務委員会報告 丸山 美実

六、学術委員会報告 小俣喜久子

七、渉外部報告 柳瀬 路子

衣装の気着け、御本真珠店見学を致します。それから会議最終日の八月二十七日(日)は日光見学旅行です。なお会議終了後の旅行も八月二十八日から六日間計画致しております。私共も出来るだけ多く参加致し各国会員の相互理解と友情を深めることを楽しみにしております。

その他、夏休みのために家族同伴で来日される会員も多いときいております。会議に出席されない同伴者の方々に満足して頂けますように、交通公社と相談致しまして色々な観光コースや施設見学コースを設けてまして有意義な日を過ごされますように案を練っております。

いずれにいたしましても日本女医学会員が一致協力致し、国際女医学会第十五回国際会議を大成功させるよう、私たちは惜しみない努力を致します覚悟でございます。

小野 春生

川那部喜美子

丸山 美実

小俣喜久子

柳瀬 路子

福永ひろ子

藤井 健子

中村 西子

八、電報披露  
参議院議員 川野辺 静

九、質疑応答  
三神組織委員長——来年八月国際女医会会議開催にそなえて、早く大組織委員会を行うべきであったが、会員全員の総意を得られなかった状態にあっての開催が遅れた事に対しお詫び甲し上げる。

山崎総務部長——会期について、山梨の総会の折、秋に変更したいとのことと小野先生が各国へ照会したところ、夏の開催希望が大多数を占めたので八月二十二日より二十七日に決定し準備を進めた。厚生省、大蔵省ほか関係機関への提出書類を整えたところ本年八月二十一日サンケイ新聞に、会議について掲載されたので各官庁より問い合わせがあり、免税許可等については未解答の状態にあるとのことと準備上残念に思われる。

小野国際女医会会長——ウィーンでの九月の役員会の報告として会期は前述の通りと確認したこと、アメリカより約一〇〇名、北欧約一〇〇名、オーストラリア八〇名、ドイツ四〇名(次回開催国会期は一九七八年八月二十六日—九月二日、その下調べの意味でも多数出席を希望している由)その他南アフリカ、台湾等からも出席される様子にて種々国際的関係のため、国旗は省き国際女医会の旗のみに決定し、パンケットの折には、各テーブルに必ず日本の会員を配置してほしいとのこと。今までの会議中における運営方法等につき細かい評価が行なわれ、我が

国においても行き届いた心づかいが必要かと思われる。

川那部運営委員長の挨拶につづき

丸山総務部長より、サーキュラーを九月に各国(二十七カ国)に対し日本航空を通じて八百二十九通発送済みで、日本の全会員にも同文、同デザインのものを送付したこと。会議に際してのカバン、土産等については総務委員会にて協議中であり、できるだけ日本のなものを準備したい。

小俣財務委員長——会議の総費用の準備として万博関係、百貨店協会、経団連、小口募金などについて、総括的報告。

柳瀬募金部長——今までの募金の総額は約一千六百万円にて、その他今後の予定などにつき報告。

福永経理部長——予算経費の収支につき報告。細かい数字については省略するが、物価高の折からは非皆様方のご協力をとのこと。

藤井学術部長——出題数八十三に達し、その中ウィールズ関係五十五を占め、九月十五日タッドベリー博士が来日され出題の分類、座長候補者の選別などが終る。特別講演者として石田名香雄東北大学教授(ウィールズ学専攻)に決定した報告。

中村渉外部長——病院見学として

- ① 東京女子医大心研
  - ② 国立小児病院
  - ③ 都立駒込病院(がんセンター)
- を決定、またウェルカム・パーティーは日本女医会主催でビュッフェスタイルで行ない余興については目下協議中。

パンケットは国際女医会主催。ソーシャルプログラム、ポストコングレスツアーの計画について報告。

質疑応答(敬称略)

野村淑子(東京)、荒川あや(東京)、早稲田かなめ(石川県)、安倍マサ(宮城県)、戸田静子(兵庫県)、多田深雪(広島県)、仁瓶礼子(静岡県)、山本スギ(東京)、佐野アヤ子(東京)、富永睦(広島県)、井上幸子(東京)、佐藤はつ(東京)、良田圭子(東京)、遠藤ハナ(新潟県)、松岡宏子(東京)、稲生 稟(神奈川県)、湯本アサ(東京)、青木豊子(広島県)などの諸先生より、会期について、裁判について、和解について、臨時総会について、国際女医会のあり方について、等々の心のこもった発言があり、大変熱心な討議が三時間におわたって行なわれた。

諸先生方の思存分のご発言を頂き表現の方法、お言葉は色々でありましたが、国際女医会会議のよりよい運営についての温かいお心には変わりなく、今後日本の女医として一致協力し恥かしくない立派なものにしたいとの希望に燃え、和やかな中に閉会致しました。大変爽り多い会であったことを拙ない司会者として心からうれしく力強く感じました。

名譽会員竹内茂代先生が十二月十五日ご逝去遊ばされました。謹しんで冥福を祈ります。

昭和五十一年一月十八日  
午後一時—二時 葬儀  
午後二時—三時 告別式  
於 東京女子医大本部講堂

支部長だより

新年に際して

新宿支部長

今野 信子

新春おめで度うございます。日本女医会々員として、年頭にまず思う事は、国際女医会東京会議を成功させる事でありましょう。いろいろの困難を克服して着々準備を進めておられる状況を、十月二十五日開催された国際女医会大組織委員会における各部の報告をうかがい、ほっとした感じをもってうけとりましたのは私一人ではなかったと思います。

今世紀中には日本にめぐり来る事のないこの国際会議を、諸外国から日本にはるる参加くださる多数の方々、誇り得る大会にもってゆきたいと念願している一人であります。

高温多湿の八月ですが、会を成功させるものは、春の花、秋の紅葉の他に数多くあるはずす。

「会を開く事は容易だが、お客様をもてなす事はむずかしい」と昔からいわれています。

参加される諸外国の皆様「なんと素晴らしい日本の会議」と感嘆され、八月の暑さを忘れて頂く鍵は、「私共一人一人の誠意ある行動にある」という事ではないでしょうか。

年頭所感

渋谷区支部長

西、山 喜代子

私は小児科医である。卒後三十六年間をこの道ただ一筋に歩んで来た、お陰で毎日性格的な色々の形の子供、そしてその母親とも接する機会に恵まれている。開業当初診ていた子供が、すでに父親に或は母親になって二世の子供を、診ることも珍らしいことではない。だが小児科医にとっては、それは最も楽しいことの一つでありまた魅力的なものもある。開業当時の親と現代の親とは、全く時代の相違を感じながらも、やはり遺伝的な性格は否めない。

両親が働くために、保育園に預けながら、育てられている子供、一人の子供、或は、片親で育てられている子供、幼時から外国で育つて来た子供等々、それぞれの環境でこども違うものと驚く程である。幼時期の環境支配の大きいことを思えば、おろそかに出来ない大切さを感じるのである。

「小児科医は診察しない前に、子供の様子で一応の見当をつけなければならぬ」これは恩師の言葉であるが、この頃どうやら子供の性格、親の性格などもわかるような気がする。同じ日本に育ったとはいっても、育った地域特有の性格を帯びて来るものである。地方と都会では異なり、また地方の中

でもその土地によって違いがある。このような異なる環境の中で、それぞれがやがて成人し、一つの環の中で事を成すためには、お互を理解することが最も大切であると同時に必要なことである。お互の短所をあげくのではなくて、これを補い長所をのばし、譲りあい、相手の立場をいたわりつつすべては善意の上に立って、協力してゆくことこそ、大成はひらけるのではなからうか。

騒々しい今日の世相の一端は、西洋的思想の流入によって、個人が強くなり出され日本の古有美とする和の精神が、沈滞しているところにも一つの要因があるのではなからうか。

今や国際的視野に立てば、他を顧みないで、一国の繁栄は許されないのだし、好むと好まざるとに関らず、握手して行かねばならぬ時に自分の言い分だけを通して渡れる世代でもなさそう

蛙のたわ言

葛飾区支部長

小松 郁子

十一月になっても暖かい日が続いて今年はどうも天候が狂っているのかしらと思っております。急に三日間もあそこがれの降雨となり、私のように葛飾名物の食用蛙にとりましては嬉しい天の恵みでした。その土砂降りの中に日本女医学会の支部の集りが開かれた

のでございます。支部長も保険請求を前に、全会員に往復葉書を出しました。が、生憎の悪天候も影響したのかしら15の出席率でした。会場を色々お世話くださいました三神会長と同級のK先生のご尽力もございまして気易いお茶の会でした。議題は主として国際女医学会の開催についてでした。その結果

(一) お互に話し合いの出来る民主的な臨時総会をして欲しい。  
(二) 日本女医学会が会に参加して良かったという会にして欲しい、何しているか解らない会では困る。  
(三) 会計は公私混同しない専門の計理士にまかせて、公明正大にしてほしい。

以上の事が明確になれば日本女医学会が一丸となり気持良く国際女医学会の受入態勢が出来るのではないかと。五十一年度の総選挙に当り、従来はあまりにも無関心で無責任であったと深く反省したとの発言もありました。

そして今回は実力があり理事会にも度々出席出来る時間的な余裕のある先生方を選挙しよう。出来れば選挙二、三カ月前の女医学会誌に立候補なされた先生方の横顔と先生の今後の日本女医学会に対する方針等を簡潔にのせていただきたい、という事で和やかに閉会しました。

蛙の私もまだ降っているアスファルト上を飛びはねつつ独り感じたのです。が、全く最近ウーマンリブという言葉を利用して世の男性たちはどうも女医さん方の学識および実力を軽んじる傾向がございまして、私のお臍のないお腹

もふくれて憤怒を押えられません。大医院、研究所で研究しておられる方々のほか大部分は出身校の相違なく立派に開業されています。

この度の総選挙ではこの平々凡々の、医師免許証を持って毎日患者に接触している先生方の水準を高めるような理事さん方が当選なさる事を陰ながらお祈りします。おや、何時の間にか雨がやんで静かになりました。私も体が乾くといけませんからぼつんと池に飛び込みましょう。

神奈川県だより

神奈川県支部長

稲生 襄

日本女医学会にとって未曾有の年で、一九七五年も終らんとしております。来年は好転して一同が気持ちよく国際女医学会を迎えたいと祈りつつ稿を草しております。

私も神奈川県支部は二百五十余名の大世帯ながら割合に意気投合していると思えます。前々支部長中村キヌ先生が永年ご尽力くださり、昭和三十六年野中久子先生に代って組織作りをしたのですが、何分広範囲の上にそれぞれが多忙で思うように行きませんが、何時の日か奏効するものと期待致しております。私は一九七五年七月バトンタッチしたばかりですが、何かにつけてお二方が基礎を築いてくださったので好都合です。中でも事業部

の仕事として昭和四十七年一月から万葉集受講、四十九年十二月より英会話受講とそれぞれ十数名ずつ参加、会員の相互親睦に努めておりますので、大変心のつながりを持ち、いざという時には理解し合って頂けるのでありがたしい事と思っております。

さて私も支部では七月に年一回の総会を開き十一月に講演会ならびに懇親会を開催しております。「支部だより」も年一回発行、今年で第四号になりました。

昨秋は神奈川婦人会館で(大腿四頭筋短縮症の診療)と題して県立こども医療センター整形外科医長亀下喜久男先生のご講演を聞き、今年には去る十一月二十二日(土)熱海簡易保険郵便年金加入者ホームで神奈川県総合リハビリテーションセンター七沢病院院長横山巖先生より「老年病のリハビリテーシ

第十八回定時総会のお知らせ  
開催日時 昭和五十一年五月十六日(日)午前九時半より  
開催場所 京王プラザホテル  
①100 東京都新宿区西新宿二二二  
電話 〇三三四四一  
〇二二(代表)  
なお五月十五日午後五時より評議員会が同ホテルにて行なわれま

ョン」と題しての講演を聞きました。二十名足らずでおききするにはもったいないようなお話でしたがホームという場所でのこのようなお話をお聞きするのは私共の宿望でしたので願いがかなったわけで本当に満足致しました。講演後センターの見学もできたらと話し合いました。なお横山先生は「目でみる脳卒中の家庭療養」(食事療法、日常生活)という本も出しておられますので希望者は後記へ注文されては如何かと存じます。

脳卒中は昭和二十六年以来わが国死因の一位を占め、そのうえ四〇―五〇万の人々がその後遺症に悩まされている現状です。脳卒中で倒れたら麻痺を起して廃人になってしまう、長期の絶対安静をしなければならぬ等の常識は現在では完全に打ち破られました。リハビリテーションによって九割は歩けるようになり、三割は職業に復帰出来るようになりました。横山先生の本は病院での恩恵を受けられない家庭でのリハビリテーションの方法を写真とイラストをつかって誰にも分りやすく書いてあります。

送料共六千円、富士オーデオ株式会社  
①取 東京都中央区銀座三三三―四 真光ビル  
TEL 〇三三四三三―〇七四五  
入浴後は再び話に花が咲き、何時までも若々しいお肌の三原先生はどんなお化粧法をとか、お倒れになっ

とか、また英会話リーダーの永井先生(甘利)は銀髪を駆使しての上手なおしゃべりはいかに等々十一時過ぎまで話はずきませんでした。最後に苦言を一つ、会員数の割合に出席の少いのが何時も残念です。またこのような楽しい有意義な会合の持ち方に、希望をお洩らし願うよう存じます。

茨城県だより

茨城県支部長

延島 秀子

前略 日ごとに秋も深まり山も里も美しく色どられて参りました。日本女医学会も日に日にお忙しくなられますこととお察し申し上げます。

国際女医学会東京会議も確定され安心いたしました。私も茨城県では昨年十一月二十一日に榊原 任先生、岩上妙子先生(参議院議員)お二人をお招きしまして茨城県内に住む女医の会を開きました。

榊原先生がご多忙なためこの日しかありません上に時間もやと一時間しかありません。残念でしたが、茨城県人としては力強いお話を伺いました。次に岩上妙子先生には女医として議員になつていらつしゃいますので日頃診療に追われ社会にうとい私共政治を通して私共は何をいかにしなければならぬかを教えて頂きました。次に中食を雨に煙る霞ヶ浦を眺めながら頂き

ました。

それから本日の目的、国際女医学会の募金の話しになりましたが、大会の時の様子をご報告し、ついで豊島章子至誠会支部長先生から追加説明、岩上先生の「またといつても大変ですか。今日集った方はここで寄付をしてはいかがですか」という発言でお若い先生方がドンドン事務をとってくださいまして全員二万円ずつ寄付いたしました。すでに三名寄付して居りますので計二十四名出来たわけでございます。

地方でもやつとすべり出したところですので、募金しやすいようにお願いします。(以下省略)

新しい年を迎えて

静岡県支部長

仁瓶 礼子

新年おめでとうございます。いよいよ昭和五十一年を迎え国際女医学会の開催国としての日本女医学会は大きな責任を果すべき重大な時に、直面いたしました。

国際女医学会が成功するか否かは、日本女医学会の国際的な真価を問われる大切なことと、私には考えられます。

金沢市の総会の折、国際女医学会の開催時期が、八月下旬にと、はじめて発表されました。賛否両論にわかれて混乱し、夏季絶対反対の一派から本部批判の文書が次から次へと地方会員に流されて、そのため戸惑い不安な気持ち

に陥らされました。しかし反対のためには手段をえらばずといった文書と行動は、しまいに不快な気持ちを与えたことも確かです。

夏季反対というのも遠来のお客様をよりよい季節にお招き致したいという好意から出たことであります。肝心のお客様が夏季を希望していられるというのですから、そのことについて内輪もめをしているのは全くつまらないことに思えます。

私も静岡県支部はジックリ情勢を見極めた上、先般支部総会を開きまして全員が一致して、本部の計画に全面的な協力をするように決議いたしました。会員の各自が自主的に応援する方針がきまり、今後努力する体勢にあります。

大きな事業の成功には何としても、「人の和」が一番大切な条件であることは今さら改めていうまでもありませんが、新しい年を迎えたいま、新しい気持ちで、日本女医学会の面目のため協力したいものと思ひます。

すぐれた考えと行動力に富んだ会員の方々の協力によって、国際女医学会を立派に成功させることが出来ますよう祈つて止みません。

新年を迎えて

富山県支部

島 田 淳子

私の住んでいる富山県を東西に二分

して、神通川が流れています。戦前は鱒、鮭の産地でもあった清流ですが、この上流には「イタイ病」で一躍名を知られた飛騨の神通山が今も静かに稼働しています。そして、戦時中は軍の需要にこたえて銅やカドミウムの採掘にそれこそ鉦山をあげて報国の意識にもえた武勲(?)を今もしのばせています。

戦後、幾年か過ぎると、全く新しい奇病がこの神通川下流の地域から多発しているのに気づきました。重金属のなかでは、カドミウムの分析はなかなか複雑で、同一検体でも測定者によってかなりの差異が出るものようです。それでも、流域の土壌や人体の組織内の含有量は自然界のものを、はるかに上回るものであります。

この異常なカドミウムの含有は、はたして「イタイ病」と関係があるとか、ないとかで、はげしく裁判論争が続きました。現代の医学からすると、簡単に疫学的に解明されるかと思われましたが、なかなかむづかしいことだったようです。

戦後三十年になりますので、国内の事情も著しく変わってまいりました。衣食住は不自由のないまでに豊富になつております。ある調査によりますと八割の人は現状に満足しているそうです。私もこの八割の中の一人ですが、さて、日常生活となりますと、精神的なことも加わりますので、とても満足しているとは答えられません。毎日の生活の底には、いつも情緒の不安が影をひそめています。

科学的なことですから簡単に白黒が判断されると思つたカドミウム問題でもあの通りでした。まして、人文的なことになりますと甲論乙駁、エゴイズムをむきだした論争は、人権じゅうりんや名誉毀損のなすり合いともなつて、目を覆わずにはいられないものになつていきます。

そして、みかけは安穏な環境ですがどうかすると電子のぶつかり合いのような凄惨さを覚えることがあります。とかく私自身も、何が悪いとか、誰のせいとか探索してみたくながちです。新しい年を迎えるにあたって、もう一步進んで女性でなければといった「クール」な環境をつくるように努力してみたいと思ひます。

中医と私

愛知県支部長

森 川 みどり

医業とは聖職であり、誰もがなり得る資格を持つていたとは言えないと思ひます。その意味では一種のエリートであり、医学の修得のほかには他の自然科学とも関連性を持ち、人間学を学ぶためには、歴史をまた社会学をも研究しなければならぬ科であります。このことは修学中の学生もまた医療にたづさわらぬ私どもも同様に学びつづけてゆかなければならぬ道であります。申すまでもなく日常の診療の対象となるものは病気でなく、病に苦し

んでいる人間であり、私達の診療の時  
間はその接点において一つの真剣勝負  
を負っているものと考えなければなら  
ません。

医療は医師と医療にたづさわる人々  
が、患者の人間の背景まで洞察して十  
分なコミュニケーションをもって行わ  
れるものであって、例外はあっても、  
病気の回復の補助的立場におかれてい  
るものであり、その間に不信感が生じ  
た時、医療は死物化され、その点が自  
然科学と異なつた体系に属すもので  
あります。

前に述べましたように誰もがなり得  
るものではないというエリート意識と  
は、心理的にも肉体的にも全く苛酷な  
ものを負わされている職種であるとい  
う意味でありますが、現在の医療はか  
ような子どもの心構えを実現し得る社  
会状況にあるかといえ、多くの場合  
本来の基盤で立ち向かい得ないよう  
な数々の要因が生じてまいりました。そ  
して両者間の不満と不安のなかで日常  
の診療が行われざるを得ないような有  
様であります。私ごとで恐縮でござい  
ますが、亡父の医業を子供心に尊敬し  
私も医師の道を選ぶことになりました  
が、亡父は患者に対しては、患者の便  
に手を触れ香を色を換べるという位の  
心配りがなければ医師としての資格が  
ないなど申しておりました。また重症  
のある場合は夜中何時でも応需の構え  
をいたしている日常でしたので、家族  
揃って遊山に出かけることも殆んどな  
く、物質面でも全く受身の態度で、患  
者まかせという生涯でした。したがっ

て患者の経済状態によつては、無料が  
当然であり、なおその上その患者へ衣  
料品(新品ではない)などを届けに行  
くのは長女の私の役でした。反面世情  
も現今とは想像もつかぬほど質朴であ  
り、階級差が自然につくられていて、  
医師の子弟には、さま。一般の所謂上  
流階級は、さん、次は、さ。と呼び方  
も違つておりました。

社会状況の変動の甚しい現在にあつ  
てもなお埋火のように胸に刻まれてい  
て、亡父母の憶出とともに私の心を豊  
にしてくれま。過去の小さな歴史は  
私の人間性を育んでおりますが、私  
達の日々の医業は医の原点に立つて、  
他の関連分野との情報の交換、技術の  
導入、新しい知識の吸収をも生涯たゆ  
みなくつづけてゆかなければならぬ  
重い責務を負う職務であることを、日  
頃しみじみ感じ「大医は国を治し、中  
医は人を治し、小医は病を治す。」の  
名言の通り、中医とならんことを願つ  
てペンを執りました。  
(五十・十二・一)

徳島県だより

徳島県支部長  
藤田 小冬

今年には国際婦人年、来年は国際女医  
会第十五回国際会議の開催国としてわ  
が国有史以来はじめて数百名に余る世  
界の女医達をお迎えするという誠に肩  
の重い緊張感に加えて何となく不安の

気持ちさえ覚えます。

この大会に対し全会員一致団結した  
いものです。日本の象徴として澄みわ  
たる初秋の青空に毅然として聳ゆる聖  
山、あの富士山の偉容の下に遠来の珍  
客を迎え心ゆくまでてなしたい。そ  
してお互に学術上の知識の交換につと  
め、またお互に出来る限り温かく抱擁  
して将来いつまでも女医としての同じ  
道を歩む良き友としての交わりと親愛  
の輪を拡げたいものです。

女医として同じ職業を持つ者同志は  
他人に知れない色々の苦衷に悩む事も  
ありますが、この度の集まりを契機と  
して楽しきにつけ悲しきにつけ胸襟を  
開いて語りあえる親しい外国の友達が  
出来ますように祈ります。

この度の国際女医会長小野春生先生  
の敏腕と全会員の熱烈なる一致協力に  
よつて本会が輝かしき精華ある収穫を  
あげられん事を切に念願するものであ  
ります。

世界は狭くなりました。たとい言葉  
がわからぬお隣り同士でも、やがては  
親身に勝る間柄となる場合もありまし  
ょう。全世界は政治に経済にたがい  
からみあい近時大いに騒がしくなりま  
した。たとい微力軟弱な小さな集まり  
でもお隣り同士の親しい交わりが世界  
平和の一端をになう重大な役割りを果  
す事もあり得るものです。

向寒の折柄会長先生はじめ執行部の  
方々は健康に留意せられめでたくこの  
国際会議の目的を達成される事を祈り  
ます。  
(昭和五十年十一月二十六日記稿)

岡山県だより

岡山県支部長  
杉 久子

恩愛悠久 山川草木悉皆成仏 四海  
同胞 和敬静寂 和顔愛語 など偉大  
なる先哲の言葉をかみしめつつ思うま  
まに。

四季の移り変りは寸分のよどみもな  
く毎日毎日変わっております。新芽若芽  
青葉となり真夏の太陽をふんだんに満  
喫して生きていることを楽しみます。  
盛夏もすぎ秋の気配に四方の草木は実  
り色つき、満艦飾の紅葉に着飾りま  
す。やがてその紅葉も木枯にさそわれ  
て落葉となりくちはてて土と水に変わ  
て行きます。また木立は来春の芽ぶき  
を秘めて冬ごもりの仕度に余念のない  
こととす。

人も同じこと、母体での十月、単  
細胞より成熟児となつて母体をはなれ  
て、外界で呼吸をはじめてより多方面  
の恵みのままに一寸のやすみなくいき  
をつづけて成長成人となり、齢六十歳  
にもなると老化も目立つようになりま  
す。

自然の営みの不思議さ、川の流れを  
見つめるにつけ、夜空の星を見あげる  
につけ、紅葉一葉みるにつけ、時の流  
れをいとおしみたい気持ちになります。  
それにもまして人と人との出合、縁は  
不思議です。なにかの因縁としかおも  
われません。知り合った縁、同じ時に  
生れ合せたことも皆幸せなこととす。

近頃思うこと

山口県支部長  
青柳 雪子

先日支部長宛に日本女医学会誌新年号  
に寄稿を依頼されましたので、近頃念  
願している事を記して見る事にしまし  
た。  
私共が昭和五十一年に国際女医会が

お互に手をつないでお互に気持を尊重  
し合つて、物事に対処して解決するよ  
うに個人個人が努力することにより、  
この世はもっと住みよいあたたかい社  
会になるように思います。自分の思う  
ようにならないからと相手を罵倒した  
り批判ばかりしていたのでは、平和は  
のぞめません。自分の出来る能力に応  
じて相応に働くことが、自分のため  
も生きがいの人生と存じます。  
このところストライキだ、裁判だど  
か、不愉快なことのみ多く耳に入り目  
にふれて残念でなりません。一刻のよ  
どみもなく流転している現世です。お  
互にもっともっと目先の利害にとらわ  
れることなく大空のような気持になつ  
て、大局より物事を判断すると、今ま  
で自分の固持していた主義主張もうた  
かたの泡のように消えてあとと清らか  
な平和心となり、すばらしい天国浄土  
の楽園は夢ではなく、現実のものとな  
ることを祈りつつ。これは老婆のたわ  
ごとでしょうか。 合掌  
昭和五十年十一月二十七日

東京で開催される事につき何か中央で面白からぬ雰囲気のある事を感じたのはすでに久しく一年にも渉っているでしょう。それが次第に熾烈化して行く事に憂慮し始めました。相争われている双方の方はいずれも我々の尊敬し信頼している方々であり、何かふとしたいきさつが次第に紛糾膨張して来たものと思われませんが、何も事情の解らない私共があれこれ申すもおこがましく思いますが、何しろ時は流れて国際会議も後八カ月許りに迫り気になります。お互いに謙虚の胸襟を開いてお話し合いになれば解決されて行くものと思いますが、万一それが一朝一夕に行かないものであれば、大事の前の小

Circular Letter No. 37

—国際女医学会本部通信—

国際連絡書記 佐野アヤ子(訳)

昭和50年10月7日

昭和五十年九月三〜五日、ウィーンにおいて国際女医学会 Executive meeting が行なわれた。Drs. Boonkaphol, Hulslein, Roedenbeck を除いて全員出席(もと会長の Dr. Hellsstedt および Dr. Green も出席された。その時の討議および決定事項は

1 国際女医学会会議に關し小野国際女医学会より  
(1) 第十五回国際女医学会が東京の京王プラザホテルで来年の八月二十二日より二十七日まで開催されること。(プレリミナリ・プログラムは皆様の手もとに届いているはずですし、会誌

事、一応棚上げされて、日本女医学会幹部と会員が丸と丸とられて協力し、最高の国際女医学会が開かれる事を願ってやみません。  
個人的に考えてもお客様を招待する事は大変心配な事です。招待する以上精々良い印象をもって帰っていただきたいものと願うのは私独りではないでしょう。何とぞこの際私心をすてられその衝に当られる方にみんながご協力される事を願って止みません。

その後日本女医学会からの計画書に接し、恐らく私の心配は杞憂に過ぎないのかと、またかくある事を願うものであります。  
昭和五十年十一月二十五日

63号にも書いてありますから省略)。

(2) 学術会議のプログラムについては Dr. Patricia Tudbury 学術委員長が日本をおとすれ、日本側学術委員と相談され演題申込者全部に承諾の手紙を出したこと、抄録は昭和五十一年一月十五日までにウィーン本部に着くこと。(英語または仏語に翻訳)現在六〇題以上申込があり、興味深い学術会議になるであろうこと。

(3) 経費がかかるので英語をフランス語にする同時通訳はない。日本の会員のため並語を日本語に通訳します。日本人による演題は、英文で発表します。フランス語での発表も認めら

れる。

(4) ワークショップを初日から始める理由は皆様が早く討議のため集まって Resolutions を作る時間をあたえたいためである。

(5) ソーシャル・プログラムはまだ準備中ですが Welcome Reception のほかガーデン・パーティやキモノショーがある。

(6) 録費は \$140 U.S. (註) この後、日本側で検討し登録のみ \$130 U.S. 晩餐会費を含め \$150 U.S. とす)

(7) 晩餐会は八月二十六日(木)午後七時〜九時に行なわれる。日本の夕食時間は午後六〜八時である。

(8) 通常の NCS (国際連絡書記) Luncheon は今度は NCS Tea Party と決めました。NCS Briefing も同時に行なわれ、十分なる時間をとり、NCS の Executive と討議ができるようにする。(通常は NCS Briefing は Congress 最初の日の午前八時からですが討議の時間がありませんので) NCS Meeting は八月二十二日午後三時ですら旅行の日程を合わせるよう。

(9) 総会は二回。閉会式は短かく。Resolutions の通過は最後の総会でなされる。Dr. Jean Laurie (英国) が Chairman of Resolutions Committee として承認された。(Resolutions を提出する意見書を出すよう)

2 国際女医学会幹部(一九七六〜一九七八年)の推薦結果(略)。

3 国際女医学会で決定された Jubilee Members (五〇年会員) をきた表

彰する。日本女医学会も五〇年会員を一九七六年七月十五日までに提出するよう(一九二六年以前に M・W・I・A に入っている会員)。

4 Dr. Helga Thema 第十六回国際女医学会会費より会議はベルリンにおいて一九七八年八月二十六日〜九月二日の間に開催されること。学術会議のプログラム "Mass Media and Medicine" (医学と報道機関) を次の四部分に分けた報告。

(1) Health Education of the Layman (一般市民の健康指導)  
(2) Medical Education and Education of Medical Assistants (医学教育および医学補助員の教育)

(3) Family Planning (家族計画)  
(4) Information (情報) 'Advertising' (宣伝) 'Opinion Polls' (世論調査) 'および Manipulation (操作)

5 一九八〇年の第十七回国際女医学会の招待はイラン、南アフリカおよび英国から受けました。他の国の女医学会の招待も待つています。一九八〇年の Topics については幹部の討議の結果、前年通り Main Topic を四年前に選ぶ方がよいこと。そして 2nd Topic は二年前の総会で必要があれば選んでよいこと。一九八〇年の Topics を本部に提出するよう。この会議のための Topics は東京会議の時に討議できようするように現在次の二つ提出されている。

(a) Metabolic Disorders (代謝障害)  
(b) Planning of Medical Service in Developing Countries (発展途上国における医療サービスの企画)

9 Dr. Green は "Planning a

Congress" という本で、招待国のいろいろの責任および国際会議開催の教育に役立つよう "Cude Line" を作って各 Association に送ることになっている。

7 "A Short History of M. W. I. A. (国際女医学会の歴史の概略) 一九一九〜一九七四年" を Dr. Morani が書かれ、A・M・W・A が発行したパンフレットを東京会議で一ドルで売ることにしている。

8 Dr. Hellsstedt, Project Committee Chairman は各国より興味深い Pioneer Medical Women (女医の先駆者) 九十人以上の自伝を集めた。幹部はこれらの自伝を国際女医学会より国際婦人年に際して一冊の本に発行するつもりである。

9 Dr. Morani 国際女医学会基金委員長として国際女医学会の収入の持続的必要性を強調し、各国の女医学会が何等かの形で努力するようにのこと。

10 小野国際女医学会会長は、Dr. Alice Chenoweth (U.S.A.) を Chairman of Public Relations に選んだ。

11 スペインの女医学会は第二回スペイン女医学会を Valencia で一九七五年十月二〜五日に開くはずでしたが、国から正式の許可が得られなかったため開催されなかった。将来に開かれることを望みます。

12 最後にメトナムの我々の同胞に赤十字を通じて連絡ができなかったとの報告あり。

Martha Kyrle, M. D.  
Honorary Secretary





### 日本の女医 実態調査にご協力を

#### 調査委員会

昭和五十年も師走を迎え、あわただしい昨今でございますが、諸先生にはますますお健やかに活躍の事とお喜び申し上げます。

さて十一月初旬、諸先生のお手許にお届け申上げました日本の女医実態調査表は、すでにご覧頂いた事と存じます。


この調査表につきましては、去る日本女医学会誌復刊第六四号でくわしくご説明申し上げましたように、七月二日の第一回実態調査委員会を皮切りに約四ヶ月の間、検討に検討を重ね、また多数の先生方からいろいろと貴重なご指導、ご協力を賜りまして作成に努力を重ねてまいりました。

しかし討議には最限もなく、また先生方におかれましても種々ご意見をお持ちの事とは存じますが、約一万五千人の日本の女医の実態を知り、これを基盤として、これが各位のご参考ともなりまた女医の世界にも大きく貢献出来ます事を念願としてつくりました。

一千年余も前に既存していた女医という言葉が、長い歴史を経て今日に至り、現在その数は益々増加の傾向にあるとか、その女医が現代の社会で如何なる生活環境の下にどのような活動をしておられるのか。そしてまた家庭にも社会にも何を求め、何を希望しておられるのか、特に現代女医として最も関心の深い事であり、また国際婦人年を飾る計画としても誠に意義深いものと存じます。

すでに本部より発送後、数日にして早速調査表にご記入の上続々とご返送頂いております事を厚くお礼申し上げます。

もし、まだお手許にお持ちの先生には、ご多忙の中をお手数とは存じますが、何卒今すぐペンをおもち頂きまず一問よりご記入頂きますればまことに幸甚に存じます。十五分余りの貴重なお時間を実態調査にご協力頂けますようお願い申し上げます。

日本中の女医約一万五千人に調査票を発送ご依頼致ししても各位のご協力がなければ、実態調査の正確性は申すまでもなく、その価値さえも不完全かつ無意味なものに終る事は必然でございます。日本女医学会会員四千六百余名の先生方は申すに及ばず、ご存じの会員外の先生方にもどうぞ一言「アンケートを出しましょう」を合言葉にご協力の程、ひたすらお願い申し上げます。何分全国の医科大学名簿約七十冊という膨大な数の中からリストアップ致しましたので、不手際もあつたことと思われませんが、万一お手許に届いておりません場合は誠に申し訳ございませんがご連絡くださいませ。早速お送り申し上げたく存じております。そしてご返送頂きました貴重な資料は必ずや各位のご期待に沿うべく、集計の上ご報告申し上げます。またこれらの資料につきましてはあくまでも統計上の資料でございますので、としての責任をもって保管させて頂く事をかたくお約束致します。

なお、切は一月三十一日まででございますが、どうぞ明日といわず今日お仕事の間にお書き込み願ってご返送賜りますようお願い申し上げます。

賜りますようお願い申し上げます。

国際女医学会第十五回国際会議の登録その他に関する書類を会誌六十四号に同封し去る十月二十日に発送いたしました。

万一、お手元にとどいていない場合、本部までご連絡下さい。  
東京会議登録費について  
一九七六年三月三十一日までに申込みの上送金の場合  
登録費 会員 四万四千元  
同伴者 三万五千元  
登録費および晩餐会費  
会員 五万  
同伴者 四万一千円  
一九七六年四月一日以降申込み送金の場合  
登録費 会員 五万  
同伴者 四万  
登録費および晩餐会費  
会員 五万六千元  
同伴者 四万六千元  
英語を日本語に同時通訳しますので、その費用の一部として、日本人の登録費は五千円高くなっております。

### 世界を廻って

#### 国際連絡書記

#### 佐野アヤ子

第十五回国際女医学会の日本開催は、あと八ヶ月と迫ってまいりました。我々の生涯に二度と訪れることのないであろう日本における女医の国際会議を迎えるにあたって、光栄と大きな責任を感じます。日本女医学会員が一致協力して、この会議が立派に、正しく運営されるように心がけたいものです。ご承

知の通り、女医は最高の教育を受けた指導者であり、また、その国のファスト・レディでもあります。日本の古き伝統と文化の中で、言葉で現れなくても、暖かい心で接待して、良い印象をいだいて帰られるよう、念じています。

長年、国際連絡書記として、また東京女子医大を訪ねられた立派な皆様方に接することができ、年々、その友情を深めてまいりました。この度、ヨーロッパ諸国とアメリカを廻り、二ヶ月の旅をしてみたいと思つた。各国の方々にお目にかかり、意見の交換もでき、大変有益な旅行となりました。海外の同僚の日本に対する絶大なご好意に答えるように努力しなければならぬと思つてまいりました。

息子がイタリーに駐在しておりますので、ヨーロッパと一緒に旅行するつもりでしたが、ロンドンに急用で呼ばれ、私は一人でヨーロッパを廻り、予定していたチューリッヒ、ウィーン、ヘルシンキ等は断念して、ストックホルムに直行しました。Dr. Maria Holmstrom (Honorary Treasurer) (国際女医学会計担当)に大変ご馳足になり、いろいろとお話合いができました。田舎での休暇中をわざわざストックホルムまで来て下さいました。パリ会議会長の Dr. Leone Helstedt には、カナダからの帰国がおくれ、残念ながらお目にかかる事ができませんでした。前から女医の先駆者 (Pioneer Medical Women) の事で色々連絡を取っておりましたのに残念でした。パリでは Dr. Legend Kennevez とご家族の方々と共に楽しい二三日を過ごしました。高校時代の二年間のフランス語が少々通じました。言葉と金の問題で

ヨーロッパの一人歩きは苦勞しました。日本女医学会の旅行は忙しけれども楽な面もあることを痛感しました。

ロンドンにつき、Dr. Mary Holt (South London Hospital for Women and Children の内科部長) の御自宅で暖かい接待をうけ、楽しい日曜日をすごしました。手造りのご馳足を戴きその後偉大な Churchill の生地までドライブしました。先生は八十七才のお母様と、夢のように可愛い家に住んでおられます。美しい花にかこまれた立派な庭と、大きな野菜畑があつて、ご自分で草刈までなさるそうです。野菜は冬のために大きなフリーザーに貯蔵するとのことでした。英国人の堅実な国民性をしみじみと感じました。

ロンドンで多忙な一週間の滞在後、フィラデルフィアに直行、三度目の Dr. Morani 滞留、今度は早くサンフランシスコに行くつもりでしたが何時ものように、一週間の滞在となりました。Dr. Morani は相変わらず忙しい毎日を送っておられました。手術も当直もあの二年令で立派になつていらっしゃるに驚きます。今度は避暑地の Atlantic City (二一三時間のドライブ) でアヒルがピアノを弾くのを見に行きましようとおっしゃって、連れて行かれました。同居者の画家 Johnson 女史が、毎日案内して下さい、夜は色々の人達から招待を受けて、一週間目まぐるしく過りました。Mrs. Kaiser (Pennsylvania Medical College の理事長) の方は、Dr. Morani の紹介で三年前に女子医大を見学されましたが、当時私の粗末な家にお見えになり、大変気に入って下さり、私が、Dr. Morani 邸をおとすたびに必

才接待して下さいます。  
 近くに住んでおられる現国際女医学会副会長の Dr. Minerva Bueck も毎回、自宅に呼び下ろして、美しい銀の食器や table ware でお手製のすばらしいディナーを、ムードあふれる中でご馳走して下さいました。このような豪華な反面、Dr. Bueck も Dr. Morimi も野菜のくりにはげまれ、トマト、ピーマン、ブロッコリー、えんどう、人じんなどを数々作っておられます。結構買わなくても間に合いますとのことでした。  
 先回は、Pediatric Cardiology の Textbook で有名な Dr. Helen Tusing のお家やままとして Cape Cod の別荘に三日滞在しました。Jet から十人乗りのセスナ機で到着しますと、Dr. Tausang は自分で運転して、迎えに來られ、料理もお一人で全部なさり、クッキーまで焼いて下さいました。Dr. Tausang は七十五才になられますが、かくしゃくとして健康です。これは規則的な生活をしておられて、普通は、毎日八〜十二時まで勉強の間、朝、昼、午後の三回と三十分ずつ水泳をなさるとのことでした。私も四十年ぶりの水着 (Dr. Tausang の妹さんの) を着せられ、大西洋の水にひたることになりました。  
 各国のこれらの偉大な女医の先覚者と、身近に接し、大変光栄に思いました。そして皆様の簡素な充実した日常生活に感心致しました。  
 最近 Dr. Leone Helstedt の手紙により、日本で竹内茂代先生、宮地国栄先生および哲翁さま先生の三人がえらばれて、現存する九十人の外国の女医の先覚者と共に一冊の本に

編纂される事になりましたとのこと。また吉岡弥生先生の英文の伝記も、この度貴重な史料として、Pennsylvania Medical College の C. W. I. M の図書館に、アメリカの偉大な女医達の史料と共に保存されることになったそうです。  
**理事会議事録**  
 日時 昭和五十年十月二十五日(土) 午後二時〜三時  
 場所 至誠会館四階会議室  
 出席者(敬称略) 三神、小俣、川那部、山崎、小野、久保田、佐野、中川、福永、丸山、守安、柳瀬、稲葉、川島、熊谷、佐藤、白橋、竹内、中西、長池、野中、藤井、真鍋、森、森川、山口、山本、湯本、八木、佐藤、添田、戸田  
 欠席者(敬称略) 上田、大原、石田、福島  
 庶務報告 10・2 サンケイ新聞社編集長宛の貴紙掲載記事の一部に対する事実無根の通告を配達証明にて郵送す。  
 10・12 国際女医学会第十五回国際会議サーキュラーを三十七カ国に発送す。  
 10・16 実用新案登録番号第九三八四〇号ルーベングラントの所有権は昭和五十年八月二十六日付で三神美和会長名義より社団法人日本女医学会へ移転登記す。  
 10・25 唐沢 寿先生より半紙(千枚包×19) 寄贈  
 ・会員物故者 永尾きみ(大田区) 50・9・27  
 会計報告(別紙の通り)  
 1 昭和五十一年総会開催の件  
 (1) 期日: 五月十五日(土) 夜、五月十六日(日) 総会、懇親会  
 (2) 会場: 京王プラザホテル  
 (3) 役員選挙について: コンピ

1 ターを使用せず、選挙管理委員を多く選出し集計を行なう。具体的方法は後日検討する。  
 (4) 講演会: 地域医療関係(国際女医学会の議題と関連)の特別講演を行なう。演者未定。  
 (5) 土産品: 定時総会時の寄付金については後日検討。  
 国際婦人年日本大会への寄付金三万円送金(国際婦人年バッジ収益の一部より)。  
 2  
 その他  
 ・女医の実態調査用紙発送: 十一月月中旬。  
 ・大組織委員会: 野沢良美・清水五百子先生に決定す。  
 以上 久保田くら  
**理事会議事録**  
 日時 昭和五十年十二月六日(土) 午後三時より五時五〇分  
 場所 至誠会館四階会議室  
 出席者(敬称略) 三神、小俣、川那部、山崎、大原、小野、久保田、佐野、丸山、守安、柳瀬、石田、川島、竹内、中西、長池、野中、藤井、真鍋、森川、山口、山本、湯本、八木、佐藤、添田、戸田  
 欠席者(敬称略) 上田、中川、福永、稲葉、熊谷、佐藤、白橋、福島、森、戸田  
 庶務報告 久保田常任理事  
 ・会員物故者 横井通子(愛知支部) 不明  
 杉江寿枝(〃) 50・8・9  
 吉川政江(大阪支部) 50・6・11  
 10・25 大組織委員会  
 11・8 臨時理事会  
 11・11 女医実態調査アンケート一五、一六八通発送。  
 11・12 中華医学会訪日代表団歓迎会 於 蘆山 三神会長他三名役員出席。  
 11・16 武見太郎医師会長宛叙祝電 電うつ。  
 11・25 国際女医学会々議募金依頼書 発送(会員および支部長に)。  
 1211・129 中華医学会代表団東京女子学 医大心研および、脳外科見学。

会計報告 守安常任理事  
 別紙のとおり(十月、十一月分)  
 ・事業部よりの報告ならびに今後の予算に対するの修正のお願い  
 現在までの女医実態調査の返信の状況  
 発送数 国立二、八四〇 公立一、六二四 私立一〇、七〇一 計一五、一六八  
 返信 計 四、〇五二通  
 三割弱  
 一月末までに返事は五、〇〇〇通になると見込んでいる。集計方法として、コンピュータを使用したい。符号化に十五万、パンチカード作成に二十五万かかりそうである。現在までに予算をオーバーしているが、なお四〇万円程お願いしたい。  
 三神会長  
 ・事業の予算は二十万円であったところ、すでに今までの四十万円使用している。その上また四十万円のこと、どうするか、理事の意見としてはよい調査であるから継続はしたが、急に今の金額を決めることはできない。継続事業として、来年度に廻り、厚生省などの研究費をもらう努力をしては如何? 了解。  
 ・交通遣児を守る会について 十二月二十五日に帝國ホテルにおいて、右記のタイトルで山東昭子氏主催で会が開かれることになった。会費は二万円とのこと。  
 議事  
 一、昭和五十一年度定時総会について  
 日時 評議員会 昭和五十一年五月十五日(土) 午後五時  
 総会 昭和五十一年五月十六日(日) 午前九時半  
 場所 京王プラザホテル  
 新年号の会誌に選挙の件をのせる予定。  
 二、事務員のボーナスについて  
 三、国際女医学会への寄付について 佐野国際書記

本年も例年のように五百ドルを寄付したい。二百ドルは一般会計、三百ドルは、国際ファンド(富士銀行)よりは如何。  
 ・三神会長  
 来年は、日本で国際会議が開かれることであるし、本年はとり合えず例年通りとしたい。全員賛成。  
 四、来年度の国際女医学会のおみやげについて 山崎副会長  
 九山常任理事  
 この千五百円のフクサを千円で購入したいが、全員賛成。  
 当日は国際女医学会開催に関する紛争解決のため三神先生が仲介をお願いした。北沢あさを(東京文京区)、井出ひろ(都下)、中村きぬ(神奈川県)、荒川あや(東京中央区)の四人の先生が出席下さり、小出つる氏に直接会って伺った意向を説明なさり、理事一同で検討。この結果、小出氏側から裁判を行なうことに対したためトクパ会談を取りなすことに対し、大部分賛成。小出氏側から提案された要求事項にもとずく臨時総会は種々の点で開催できないこと話し合えば裁判が取り下げられた後に改めてはじまることなどに関し、多くの意見が出され、了解。  
 山崎副会長より、次回理事會に裁判の内容、費用について議論として提出したいとの発言あり。  
 以上 久保田くら  
 石田 妙子  
 昭和五十一年一月十日印刷  
 昭和五十一年一月十五日発行  
 編集人 大原 一 枝  
 発行人 日本女医学会  
 発行所 東京都新宿区市ヶ谷河田町19  
 社団法人 日本女医学会  
 TEL (31) 0968  
 印刷所 東京都港区白金五〇一八  
 興業美術印刷株式会社